

(6) 昆虫類 ⑰ ガロアムシ目

ガロアムシ目昆虫の成虫は体長約 20～40mm で体型は細長く、頭部は丸い。尾毛は長く、メス成虫には尾毛と尾毛の間に産卵管を認めることができる。成虫の体色は茶褐色で幼虫は白く淡色をしている。成虫になっても無翅で、幼虫・成虫ともに形態に大きな差異がないこともこの昆虫の特徴である。森林の浅土中やガレ場の石の下などに生息しており、普段、目にする機会はほとんどない。

日本からは1属6種が知られており、埼玉県からは次の3種と未記載種1種が記録されている。ガロアムシ *Galloisiana nipponensis* (Caudell et King)、オオガロアムシ *G. kiyosawai* Asahina、ヒメガロアムシ *G. yuasai* Asahina、クロガロアムシ *Galloisiana* sp.。

埼玉県のガロアムシ類は1960年代より秩父地方を中心に分布調査が行われ、データの蓄積が行われてきた。それによるといずれの種も亜高山帯から山地帯にかけて分布が確認されているが、ガロアムシは標高200m内外の低山帯から台地・丘陵帯にあたる地域からも知られている。また、近年の調査により標高100m前後のさらに標高の低い場所にも生息していることが明らかになった(石井, 2009)。このような低山帯から丘陵帯にかけての生息地は常に開発圧にさらされており、レッドランクを前版と同じくLPとした。

[付記] 下表の解説における形態や国内分布に関する項目は、町田(監修)・日本直翅類学会(2016)、埼玉県(2008)などを参照した。

科名	ガロアムシ科	埼玉県(2018)	LP	環境省(2015)	-
〔和名〕	<b>ガロアムシ</b>				
〔学名〕	<i>Galloisiana nipponensis</i> (Caudell et King)	指定状況			-
【形態】	成虫は体長約20mm、体型は細長く、頭部は丸い。尾毛は長く、メス成虫には尾毛と尾毛の間に産卵管を認めることができる。成虫の体色は茶褐色。幼虫は白く淡色をしている。無翅。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	山林の傾斜地や沢沿いの礫の多い土中や、石下に生息する。				
【県内での生息状況】	低山帯から2,000m付近の亜高山帯まで広く分布する。飯能市、日高市、嵐山町、小川町、寄居町などでは標高100mほどの丘陵帯からも生息が確認されている(石井, 2009)。冷涼な環境を好み、冬でも日の当たらないような山林に見いだせる。				
【特記事項】	丘陵地における本種の生息地は限定的であると考えられ、造成や山林の過度な伐採によって生息できなくなることが考えられる。				